

今週の聖句

彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。
マタイによる福音書 2章 11節

ねらいと説教作成のヒント

- 1、クリスマスに生まれたキリストが、イスラエルの人々だけの救い主ではなく、私たち自身を含めた世界中の人々のための救い主であることを、東方の3人の博士の物語を通して知る。
- 2、博士たちは星に導かれて東方から旅を続け、ベツレヘムでキリストを礼拝した最初の外国人となった。彼らは黄金、乳香、没薬を捧げキリストを礼拝した。しかし、本当はキリストが神から私たちに与えられた救い主であることをこの11節の言葉を通して知る。

豆知識

- 1、「顕現日」エピファニーとは、エピファイナというギリシャ語「輝き渡る」に由来し、神の救いの光が全世界に輝き渡ったことを記念する日。それは旧約聖書のイザヤ書の60章に予言されていたことの成就。
- 2、「東方」とはアッシリヤ、バビロン、ペルシャなどの説がある。
- 3、「博士たち」マゴスという語は星占術の学者。しかし、単なる占い師ではなく、真理を探究する賢者。彼らの捧げ物が「黄金、乳香、没薬」であることから3人と言われているが聖書には複数形で書かれているものの、人数の記述はない。3人の名がメルキオール、バルタザール、カスパールというのは7世紀頃の伝説。「黄金キリストが王であることを、乳香はキリストが礼拝されるべき神の独り子であることを、没薬はキリストが十字架によって私たちの救い主であることを象徴する。

説教

イエス様が私たちの救い主としてベツレヘムでお生まれになったとき、イエス様を拝むことが出来たのは、羊飼いと3人の博士さんたちでした。(クリスマスのお礼拝のページントを思い出してください。)夜、野宿をしているときに天使たちから救い主がお生まれになることを知らされた羊飼いと博士さんたちは、イエス様を礼拝し、救い主のお生まれを祝うことができました。そして、遠い東の国の博士さんたちは、お空に大きく、明るく輝く星がその誕生を教えてくださいました。その星は博士さんたちを導き、ユダヤの国のベツレヘムまで導き、博士さんたちはユダヤの国以外で最初に救い主イエス様を礼拝した人たちとなりました。イエス様は世界中の人々の救い主としてお生まれになったお方だからです。イエス様は日本という国に生きている私たちにとっても神様が与えてくださった救い主です。イエス様を信じる子どもに国境はありません。私たちも神様の子どもたちです。博士さんたちはイエス様に捧げ物をしました。でも本当はイエス様こそが神様が世界中の人たちに与えてくださったプレゼントだったのです。だから私たちは、そのことを信じるお心、イエス様を救い主として信じるお心を礼拝で捧げることをイエス様は喜んでくださいます。そしてイエス様は信じる私たちの人生の日々を真の光としていつも導いてくださいます。博士さんたちが星の光に導かれて長い旅を続けられたように私たちもイエス様に導かれて、神様の子どもとして成長していくことができるのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

21番

改訂78番

やってみよう

星迷路・・・占星術の学者は星に導かれてイエス様に会いに行きました。みんなも星迷路で をたどってゴールをめざそう！

スタート

	○								
		○							
			○						
		○							

ゴール

話してみよう

3人の博士達は、長い時間をかけて遠くから探しながらイエス様のところにたどり着いたと言われています。

3人の博士達は、どのような気持ちでそのような苦勞をしながら旅を続けてきたと思いますか。ついにイエス様に会えた時には、どのようなきもちだったのでしょうか。

今週の聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。	マタイによる福音書 3章 17節
---------------------------------------	------------------

ねらいと説教作成のヒント

- 1、イエスは神の子でありながら、その公生涯のはじめにバプテスマのヨハネから洗礼を受けた。これは罪の無い神の子が、罪人と同じ所に立たれるためであった。イエスの洗礼は罪人として生きる決意であり、それはまた同時に神は神の御心でもあった。
- 2、父なる神と子なるイエスの心は、全く一つであったことをこの17節の言葉を通して知る。そして、キリストを信じるとき、私たちもこの言葉の通りに、神の愛する子ども、私の心に適う者とされることを知る。

豆知識

洗礼とはキリストの死と復活に与り、神の救いの恵みを信じ受け入れる教会の sacrament (礼典)。プロテスタントでは洗礼と聖餐が sacrament である。ユダヤ教の一部では宗教的な清めの儀式として、身を水に浸すことが行われていたが、バプテスマのヨハネは、人々に「悔い改めのバプテスマ」を求め、授けていた。

説教

イエス様はこれから人々に神様の愛を伝えるために生きようと決心されえたときまず、バプテスマのヨハネさんの所に行って「悔い改めのバプテスマ」を受けました。

それは、イエス様が私たちと同じ所に立って、私たちを愛するためでした。イエス様は私たちの上から、ただ神様の愛を教えてくださいではありません。私たちと共にいてくださり、私たちと一緒に生きてくださることによって、私たちに神様の愛を教えてくださいなのです。ということはイエス様は私たちの心の中にある嬉しいことも悲しいことも困っていることも全部分かっていてくださるということです。いつも私たちと一緒にいてくださるのがイエス様なのです。そして、私たち一人一人を大切なご自分の子どもとして愛して下さっているのがイエス様です。愛するということは、どんなときにもその人と同じ所にいるということです。一緒に生きるということだと思います。イエス様は私たちと一緒に生きて下さっているのです。このイエス様の生き方は、イエス様だけのお考えではありません。父なる神様の御心でもあるのです。だから、天から神様の声が聞こえたのです。「これは私の愛する子、私の心に適う者。」神様が私たちといつも一緒にいてくださるイエス様、私たちといつも一緒に生きてくださるイエス様。そのイエス様のお心と神様のお心は全く一つなのです。つまり、イエス様が私たちと一緒にいてくださることは神様が私たちと一緒にいてくださることであり、神様が私たち一人一人をご自分のこどもとして大切に愛して下さっていることなのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

1 番

改訂 8 番

やってみよう

カード獲得ゲーム

用意するもの

・カード(画用紙などを切ったもの) えんぴつ、サインペン

それぞれカードを二枚持ち、今日の聖句の前半と後半に分けてカードに聖句を書く。

2グループに分かれて、カードを獲得する人と、渡す人になる。

獲得する人は渡す人とじゃんけんをして、じゃんけんに勝ったら一枚カードをもらえる。負ければ持っているカードを渡す。

一番早く今日の聖句がそろった人の勝ちです。今度は役割を交代してやってみましょう。

話してみよう

イエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受けられました。

イエス様とバプテスマのヨハネの関係を調べてみましょう。

図書館にある「キリストの生涯」や「キリスト伝」「マタイの福音書」の解説書などに載っています。

今週の聖句

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、 宣べ伝え始められた。 マタイによる福音書 4章17節

ねらいと説教作成のヒント

- 1、イエスの宣教の開始の記事を通して、イエスの愛、神の愛が私たちのすぐ近くにもたらされており、近くにあることを知る。
- 2、天の国とは死んだらいくあの世ではなく、私たちの直中にある神の愛の支配であることを知る。
- 3、悔い改めるとは、反省することでも、悔やむことでもなく、即ち後ろ向きになることではなく、未来にむかって全人格をもって神の愛に立ち返ることであることを知る。

豆知識

「悔い改め」メタノイアという言葉は「立ち返る」という意味。180度向きを変えて神のもとへ立ち返ること。

説教

イエス様が私たちに一番最初に教えてくださった言葉がこの「悔い改めよ。天の国は近づいた」というみ言葉です。天の国とは、どこか遠くにある国のことではありません。

天の国とは神様の愛がすべてを包む世界のことです。イエス様は神様の愛が私たちのすぐそばにあることを教えてくださっています。私たちがそのことに気がつくなら、天の国は私たちの中に実現するのです。でもどうして、神様の愛のご支配は私たちのそばにあると言えるのでしょうか。それは、神様の愛そのものであるイエス様が私たちのところに来てくださったからです。イエス様のおられるところ、そこは神様の愛に包まれる世界だからです。イエス様が私たち一人一人を愛して下さっていることを知るとき、天の国は私たちの間に実現しているのです。だから私たちは自分勝手なお心や、意地悪なお心を捨ててイエス様の所に帰っていかなければならないのだと思います。イエス様の愛に立ち帰って、お友達のことを大切にするとき、そのとき私たちは神様の子どもとしてイエス様の愛に包まれて毎日を過ごすことができるようになると思います。

分級への展開

さんびしょう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

36番

改訂120番

やってみよう

天の国すごろくを作ろう

新しい年になり、凧揚げ、コマ回し、福笑いといろいろなお正月遊びをしたひともいると思いますが、今日はみんなですごろくを作ってみましょう。今日のゴールは天の国です。

用意するもの

- ・大きめの紙、サインペン

スタート

ゴール

スタートとゴールを決めて、みんなで自由な双六を作って、遊びましょう。

話してみよう

「悔い改める」とはどういうことでしょうか。
私たちはそのために、何をしたら良いと思いますか。

今週の聖句

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。	マタイによる福音書 4章 19節
--------------------------------------	------------------

ねらいと説教作成のヒント

- 1、ペトロの召命の出来事を通して、キリストに従うことの幸いを知る。
- 2、キリストはペトロが優れていたのが弟子としたのではない。ペトロや他の弟子たち、また私たちもご自身の恵みによってキリストに招かれ、召されていることを知る。私たちがキリストによって無条件に愛されていることを知る。
- 3、人間を「とる」漁師にしようとは、他者を獲得することではなく、自分が他者を生かす者とされることであることを知る。ペトロのキリストの言葉への信頼を知る。

豆知識

- 1、ペトロは最初のキリストの弟子。
- 2、「とる」とは生かすためにとる—Take to alive である。その意味をこめて聖書には「とる」とひらがなで表記されている。

説教

イエス様はペトロさんに「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。」と言われました。ペトロさんはお魚を取って暮らしている漁師さんでしたが、これからは網でお魚を取るのではなく、一人一人がイエス様の愛に生きることができるようになるために働く者にされました。同じようにイエス様は私たちにも「わたしについてきなさい」と言われます。それは、私たちが立派で偉いから、だからイエス様に従うことが許されるのではありません。イエス様が、無力な、弱い、小さな私たちを愛してくださって、そして招いてくださっているのです。ペトロさんや他のお弟子さんたちも、みんなそのようにしてイエス様に招かれた人たちでした。そして、彼らはみな、イエス様の招きを喜んで受け入れて、イエス様に従ったのでした。嫌々ついて行った人はだれもいませんでした。みんな喜んでイエス様に従って行行ったのです。それは自分がイエス様に愛されていることが分かったからです。だから自分も他の人たちに、イエス様がみんなを愛してくださっていることを知らせたかったからです。そしてイエス様は、私たちのことも、「わたしについて来なさい。」と招いてくださっています。イエス様は私たちのことも、悲しんでいるお友達や、困っているお友達、独ぼっちでいるお友達と一緒に生きる者としてくださるのです。だから私たちも喜んで、イエス様の招きに従って行きましょう。イエス様の愛を信じて知って、イエス様に従って成長する子どもになりましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

67番

改訂53番

やってみよう

釣り神経衰弱

用意するもの

・割りばし、凧紐、磁石、クリップ、画用紙

画用紙で同じ色の魚を2枚ずつ作ります。完成したらクリップをとめておきます。

割りばしに凧紐を結びつけます。紐の先に磁石を付けます。

完成したら魚釣り神経衰弱をやってみましょう。魚を裏向きに置き、同じ色の魚を釣ることが出来たら、魚は手元に置きます。同じ色でなければ戻します。一番多くの魚が釣れた人が勝ちです。

話してみよう

イエス様がついてきなさいと言いました。

イエス様に付いていくには私たちはどうすれば良いのでしょうか。

毎日の生活のなかでできることがあるはずです。

皆で考えてみましょう。